

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 4 月 9 日現在

機関番号：12601

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2014

課題番号：24653245

研究課題名(和文)わが国における「高等教育界」の権力構造と政策過程に関する定量的・定性的分析

研究課題名(英文)analysis of the political process in the higher education field

研究代表者

橋本 鉦市 (HASHIMOTO, Koichi)

東京大学・教育学研究科(研究院)・教授

研究者番号：40260509

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、「高等教育界」を高等教育に關与する多様な「参加者」が様々な「問題群」の中にある選択肢をめぐって葛藤、調整、妥協を展開する政治的領域であると指し、この問題群(重要問題としてイシュー)と参加者群(その中核に主要アクター)の両者、また各々の内部ならびに相互の関係を包括的に把握し、この界に独自の政策形成・決定のメカニズムを定量的・定性的(計量テキスト分析、ネットワーク分析、インタビューなどによる方法)に解明した。その成果の一部として、『高等教育の政策過程』(玉川大学出版部、2014年)を上梓した。

研究成果の概要(英文)：In this study, we aimed to quantitatively and qualitatively elucidate the mechanism of the policy making process of the higher education in the postwar Japan. We analyzed issues, actors and their relation in the higher education field by the quantitative text analysis software. In addition, we interviewed main actors asking the actual situation of the policy process as a qualitative investigation.

研究分野：教育社会学

キーワード：高等教育 政策過程 計量テキスト分析 ネットワーク分析

1. 研究開始当初の背景

高等教育の政策研究の蓄積はこれまでも少なくないが、それらの研究は政府・文科省の施政方針や審議会答申の紹介・解説といった色合いが濃いものが多く、政策過程論に基づいた政策形成・決定に関する研究は、いくつかの研究(橋本 2008 など)を除いて、きわめて少ないのが現状であった。また政策過程分析には、イシューアプローチ(特定のイシューを取り上げ、アジェンダセッティング - 政策形成 - 決定というプロセスを詳細に分析)とサーベイアプローチ(一定の政策領域に関わる影響力を持つ政治的アクター群を限定し、彼らが生成する政策プロセスを考察)という2つの方法論があると想定されるが、前者はイシューもしくはアジェンダとはならない問題群は把握できず、後者は潜在的に重要ではあるが周辺的な参加者やその役割については看過されがちである。したがって高等教育の政策過程を幅広くすくい上げようとする場合、イシュー化される以前の「問題群(Problems)」ならびにアクターとして影響力が顕在化していない「参加者群(Participants)」の両者にまで視野を広げる必要があると考えた。

2. 研究の目的

本研究では、この「問題群」と「参加者群」の両者は、一つの政治的領域 = 「界」を構成するものと措定した。この定義に従えば、「高等教育界」は高等教育に関与する多様な参加者(例えば文教関連議員、文部官僚、学者、教育ジャーナリズムなど)が様々な問題群(カリキュラムや教科書といったミクロから制度設計などマクロに至る諸問題)の中からある選択肢をめぐって葛藤、調整、妥協を展開する政治的領域と考えることが出来る。したがって、この界における問題群(重要問題としてイシュー)

と参加者群(その中核に主要アクター)の両者、また各々の内部ならびに相互の関係を包括的に把握することは、高等教育の政策過程分析をより明確に分析する第一歩となるのみならず、高等教育界が持つ独自の政治的特徴の一端も明らかに出来ると考えた。

3. 研究の方法

具体的な方法論として、本研究では、戦後改革期から現代に至るスパンで、計量テキスト分析、ネットワーク分析、インタビューといった定量的・定性的な手法を相補的に組み合わせて、この界の構造分析を行うこととした。

まず計量テキスト分析であるが、これまでも分析用ソフトを活用して、国会会議録の議事内容の分析を行い戦後の高等教育政策のイシューとアクターを抽出・分析したが(橋本 2007) 本研究ではそれを踏襲しながら、さらに政治家(与野党議員)・官僚(政府委員)・参考人(学者・マスコミ関係者)などまで範囲を広げ、彼らの発言内容と発言量についてより詳細な分析を試み、公式(「表」)の政治領域(アリーナ)における主要なアクターとイシューの抽出を解明し、自民党・文部官僚ばかりではない野党・マスコミ界・学界のアクターも浮かび上がらせることとした。

次に、高等教育界の構造とロジックに関するネットワーク分析であるが、すでに橋本・丸山(2010)では、戦前期の教育雑誌の記事に現れた大量の参加者群と問題群を対象に、ネットワーク分析を援用して高等教育界の多層的・多重的構造の一端を解明したが、本研究でもこのアイディアと分析法をさらに発展させて、戦後における様々なデータ・メディアなどを素材に、現代につながる参加者群と問題群を解明し、「高等教育界」の構造と、これまで看過されがち

であった、この界を支えるロジックを考察することを意図した。

さらに、これまで高等教育界のアクター・参加者へのインタビューについては、一部のオーラル・ヒストリー以外、ほとんど行われていなかったが、本研究では上記の量的分析で浮かび上がってきたアクター・参加者群にインタビューと資料収集を行い、質的なデータを蓄積することとした。各アクターがどの程度語ってくれるかは未知数ではあるが、政策過程の裏面史が蓄積できれば今後の研究に多大な貢献が可能となると考えた。

4．研究成果

研究期間に得られた成果の概要は、以下の通りである。

まず、高等教育における政策過程分析について、国内外の研究動向と方法論の展開・課題について整理した。国会会議録などの公式の政策・行政文書をテキスト化し、さらにKH Coderなどのソフトを使ってその内容分析からイシューとアクターの抽出・分析を行った。

また、高等教育関係の個人・中間団体・諸機関の最も顕在的な集団の一つとして、高等教育に関わる関連諸学会（とくに高等教育学会）を取り上げ、それらの15年間の学会活動を振り返りつつ、その知識形成と組織編成の変容と現状を考察し、そこに関わるアクターと問題群についてネットワーク分析を行って、その関係性を解明した。またケーススタディーとして公認心理師の国家資格化の政策過程を取り上げ、詳細な分析を試みた。

さらに、大手新聞社の高等教育の担当記者や文部科学省の官僚諸氏などにインタビューを行い、トップレベルでの政策形成・決定の実態とそのプロセスに関して、関係資料とオーラル・データを収集した。

以上、「5．主な発表論文等」にリストしたように、本研究の研究目的はほぼ達成できたと考えるが、今後さらに範囲を広げて様々な史資料を利用して幅広い参加者とイシューをすくい取る作業を進めていく必要がある。またインタビューの際に声価法などを援用することを試みたが、十分に活かしきれなかった。質的な方法論の開発もより積極的に進めていく必要がある。

<文献>

橋本鉦市 2007「戦後高等教育政策におけるイシューとアクター」『東北大学大学院教育学研究科年報』第56第1号、71-87頁。

橋本鉦市 2008『専門職養成の政策過程』学術出版会。

橋本鉦市・丸山和昭 2010「近代日本における教育界の構造分析」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第49巻、85-104頁。

5．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 5 件)

橋本鉦市「戦後日本における高等教育関連議員の構造分析」『大学論集』第44集、2013年3月、163-178頁。

橋本鉦市「戦後日本の高等教育関連議員と政策課題 - 国会における発言量と内容分析 - 」『名古屋高等教育研究』第13号、235-256頁、2013年3月。

橋本鉦市・丸山和昭「高等教育研究の知識変容とネットワーク - 関連3学会の比較を通して - 」『高等教育研究』第15集、183-201頁、2013年5月。

橋本鉦市・丸山和昭「高等教育3学会の比

較分析結果」矢野眞和・濱中義隆・足立寛・橋本鉦市・丸山和昭「高等教育学会会員調査(15周年記念事業) - 分析結果報告 - 」『日本高等教育学会十五周年記念誌』日本高等教育学会、2013年5月、24-30頁。

橋本鉦市「高等教育政策の過程分析 - 日米における最近の研究動向を中心として - 」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第53巻、2014年3月、67-79頁。

〔学会発表〕(計 3 件)

橋本鉦市「戦後日本における高等教育界の政治アクター」『日本高等教育学会 第15回大会』2012年6月2日、東京大学。

矢野眞和・濱中義隆・足立寛・橋本鉦市「高等教育学会会員調査(15周年記念事業) 分析結果報告」『日本高等教育学会 第15回大会』2012年6月3日、東京大学。

丸山和昭「『公認心理師』の政策過程に向けて」『高等教育学会 研究交流集会』2014年12月6日、東北大学。

〔図書〕(計 1 件)

橋本鉦市『高等教育の政策過程』玉川大学出版部、2014年7月、全266頁。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

橋本鉦市 (HASHIMOTO, Koichi)
東京大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：40260509

(2)研究分担者

()
研究者番号：

(3)連携研究者

荒井 英治郎 (ARAI Eijiro)
信州大学・学術研究院・総合人間科学系・准教授
研究者番号：60548006

丸山 和昭 (MARUYAMA Kazuaki)
福島大学・総合教育研究センター・准教授
研究者番号：20582886